

半島観光における周遊ニーズと MaaS の適用に関する考察

杉澤 奏¹・栗原 剛²

¹ 学生非会員 東海大学 観光学部 観光学科 (〒151-8677 東京都渋谷区富ヶ谷 2-28-4)

E-mail: 7bps2126@mail.u-tokai.ac.jp

² 正会員 東洋大学准教授 国際観光学部 国際観光学科 (〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20)

E-mail: kurihara039@toyo.jp

わが国半島地域では、しばしば周遊型の観光促進政策が採用される。例えば、三浦半島では「三浦半島魅力最大化プロジェクト」を掲げ周遊化に意欲を示した他、伊豆半島では、周遊促進の一助として観光型 MaaS(Mobility-as-a-Service)の実証実験を開始した。しかしながら、半島といえば周遊というイメージで政策形成されている感が否めず、果たして半島では周遊型観光が効果的といえるのだろうか。そこで本研究では、半島観光は周遊が良いか否かを明らかにすることを目的とする。良いか否かを評価する観光の価値にかかる指標を検討し、SEMを用いて周遊の有無による観光の価値を検証する。最終的には、その検証結果に基づいて今後の三浦半島における観光政策と観光型 MaaS について考察する。

Key Words: *Excursion behavior, Peninsula, Secondary traffic, MaaS(Mobility-as-a-Service)*

1. はじめに

観光形態には、単一の観光施設のみを訪れ帰宅するような往復型とは異なり、観光地域内にある観光資源や宿泊施設などをめぐる周遊型が存在する(森地ら(1998)¹⁾。そして、半島ではこの周遊型観光が推進される傾向にある。

例えば、三浦半島が掲げる「三浦半島魅力最大化プロジェクト」では「点から線へ、さらに線から面へと広げて観光の周遊化を図る」とし、自転車による周遊促進を掲げている²⁾。また、伊豆半島の美しい伊豆創造センターでも同様に「来遊客周遊性向上事業」として伊豆半島をサイクリングで一周するイベントの継続実施や、道の駅の周遊促進を掲げている³⁾。

このように、半島においては来訪者の周遊を促す政策が好まれていることがわかる。しかしながら、これまで観光政策の中で周遊型観光が効果的であるか否かという問いは検証されていない。要するに、観光を受け入れる側は、「半島は周遊した方が良さそう」、「半島は一筆書きで回るべきだ」、というようなイメージに基づいて政策を進めていると考えられる。このようなイメージで政策を作ることは理想的とはいえず、本来ならば半島観光は周遊が良いという根拠が示されるべきである。

そこで本研究は、半島観光は周遊が良いか否かを明らかにすることを目的とする。その検証方法は、これまで使われてきた半島周遊観光における観光客の満足度や再訪意向ではなく、観光客と観光地側にとっての価値に焦点を当てる。

本研究の全体構成としては、まず周遊に関する先行研究レビューを行った後、需要側(観光客側)を対象にアンケート調査を行う。そして、その結果に基づいて周遊は良いか否かについて検証を行う。またこの需要側の調査と並行して三浦半島のケーススタディーを行う。ここでは、三浦半島における供給側(観光地側)の文献調査や MaaS の取り組みについて調べる。そして最終的に需要側の調査結果や三浦半島における供給側や MaaS の取り組みをもとに、周遊型観光を促進する半島に対して、その妥当性や課題を明らかにするとともに、今後の三浦半島における観光の在り方を考察する。

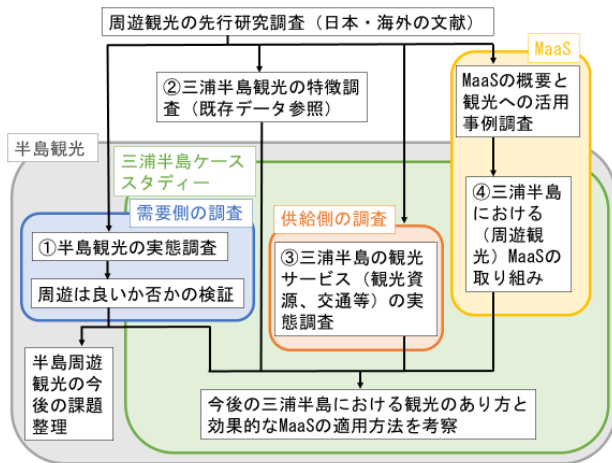


図-1 研究の流れ

2. 先行研究レビュー

(1) 周遊に関する先行研究

周遊の根源的な背景をたどると、心理学や民俗学に行き着く(橋本(1997)⁴⁾。というのも、円やうずまき、めぐる動作というのは、「精神的な意味で新たな次元を獲得する(心理的に生まれ変わる)という意味」になり、観光においては完遂したという満足感、成就感、達成感が得られるという。また、合理的かつ効率的に観光対象を巡ることができるという効果もあるという。

上記の点から、周遊もしくは一筆書き観光するという行動に、どこか人間行動の理想形としてのイメージがあるということが想像できる。

土木計画学や都市計画学では、旅行者行動の特性として周遊観光が分析されてきた。都市型観光地における観光周遊行動特性の分析が存在する⁵⁾。この研究では京都観光の周遊行動データを用い、「トリップチェーン内の活動箇所数が多いほど1箇所あたりの平均滞在時間が短くなる」ことや、「活動箇所別の平均滞在時間は来訪者の周遊パターンと共に活動箇所の配置や観光資源の量に影響を受ける」などということを明らかにした。

観光客の情報利用と周遊のパターンに関して、富士五湖地域を対象とした研究から、周遊地域内に宿泊する観光客は地域外に流出する観光客よりも遅くまで立ち寄り場所情報を利用しているということ、また流出型の方が帰宅決定時間が遅いということなどが分かっている⁶⁾。

京都市における観光客の目的地選択とその連関性に関して、西野ら⁷⁾の分析から、目的地選択の多様性について遠方から来た人や初めて来訪する人は、著名な観光地を訪れるということ、一方で市内の人や何度も訪問している人は多様であると分析した。また、自動車利用者は交通機関利用者よりも平均移動距離が長く広域的である

とした。

以上のように、周遊に関する研究は活動箇所数と滞在時間、周遊パターンと情報利用、訪問回数と目的地選択という観点で展開しており、周遊観光の価値、すなわち周遊が良いか否かに焦点をおいた研究はこれまでなされていない。

(2) 観光の価値の計測方法に関する先行研究

周遊観光が良いか否かの検証を試みる際、観光客の満足度や再訪意向を指標とすることが一般的である。例えば、日本版DMOには、KPIに来訪者満足度とリピーター率が必須の項目として設定されている⁸⁾。また、神奈川県が毎年発表している「神奈川県観光客消費動向等調査」でも同様に、来訪の満足度と再来訪意向について調査している⁹⁾。

確かに旅行者へのアンケート調査で満足度や再訪意向は尋ねやすい設問であるが、概して満足度は高くなる傾向があるため、周遊の有無による満足度の統計的な有意差が得られるとは考えにくい。さらに、旅行者満足度や再訪意向という指標そのものは、本研究の問いである「周遊が良いか否か」の評価には不十分であると考えられる。

観光の価値を測る上で参考となるのが鈴木ら(1984)の示す観光の誘因である¹⁰⁾。ここでは、観光の誘因として自己啓発とレクリエーション等を挙げている。前者は、観光交流を通して自分を振り返り、発見することで啓発されると説明する。また後者については、日常圏を離れて日常感情を忘れることは、リ・クリエイション、すなわち生氣を取り戻すことに繋がるという。鈴木ら(1984)は、観光の誘因の一部として上記2つを挙げているが、筆者は本研究の価値を測る要素として活用できると考え、検証における潜在変数として使用する。

海外では、Pan et al.(2020)¹¹⁾がシニア旅行者の観光による人生の満足度の関係性をSEM(構造方程式モデリング)を使用して検証している。ここでは、旅行動機(travel motivations)、旅行制約(travel constraints)、旅行満足度(travel satisfaction)、レジャー満足度(leisure life satisfaction)、と人生満足度(overall life satisfaction)の潜在変数の関係性を検証しており、本研究に一部活用する。

さらに、韓国人の中国への旅行についての研究では、思い出に残る観光経験(memorable tourism experiences)を測る際、快楽(hedonism)、珍しさ(novelty)、現地の文化(local culture)、リフレッシュ(refreshment)、貴重さ(meaningfulness)、関わり(involve ment)、知識(knowledge)の7つの項目を設定して¹²⁾。

以上のように、先行研究から観光の価値に関わる測定指標およびその検証結果がみられた。しかし、周遊が良

いか否かに関してその価値が検証された研究はない。本研究は観光客と観光地の視点から、周遊型観光の価値の検証を試みる点に特色を有する。

3. 仮説と検証方法

先行研究レビューから分かるように、これまで直接的に周遊観光の価値を検証する指標は検討されてこなかった。そのため、本研究では先行研究による知見を援用しながら、観光の価値を表す指標を整理する。その際、観光の価値とは観光客にとっての価値だけでなく、受け入れ側である地域にとっての価値も含めて検証する。

本研究における理論仮説は、「半島観光は周遊型が良い」とする。そして、SEM を用いて、半島観光は周遊が良いか否かを検証する。具体的に、半島を周遊した人としていない人との間で、各潜在変数の因果構造の関係性に違いがあるのかを検証する。そして、周遊した場合の方が因果関係に有意な関係性がみられた場合、周遊は価値がある、つまり半島観光は周遊が良いと結論づけられる。

表-1 から分かるように、研究で使用する潜在変数は、自己啓発、自己実現、レクリエーション、社会的交流、経験、人生満足度等である。質問項目としては、自己啓発分野の中では、新たな自己を発見するきっかけがあったか、や観光交流を通して自分自身を振り返るきっかけがあったかなどである。また自己実現分野では、達成感が得られたか、や観光を通して知識が増えたかなどを問う予定である。

4. 半島観光の実態

本研究の対象を三浦半島と伊豆半島に選定した理由は3つある。1つ目は、2つの半島とも周遊政策に力を入れているということ。2つ目は、どちらも東京都心から比較的近くアクセス時間が同等であるため、観光のターゲットが一緒であるということ。3つ目は、伊豆半島は三浦半島よりも周遊ルートが豊富に提供、販売されているため、現時点で周遊している人が三浦半島より多いと考えられ、比較しやすいことである^{13) 14)}。

このような条件をもつ2つの半島観光地を比較することが、最終的に三浦半島における観光政策の提案に繋がると考えた。

表-1 潜在変数と観測変数

潜在変数	観測変数	参考文献
レクリエーション	日常から一時的にでも脱することができたか	鈴木ら(1984)
	日々の疲れが取れた気がするか	
	明日への活力が生まれたか	
	リラックスできた気がするか	
	さみしさから脱し、喜びを感じたか	
社会的交流	たくさん現地の人に会い、関わることができたか	Pan et al. (2020)
	観光を通して現地の人と心理的な繋がりを持つことができたか	Zhang et al. (2018)
経験	人生に一度の貴重な体験ができたか	鈴木ら(1984)
	現地の人や観光資源を身近に感じることができたか	
自己啓発	体験(食事・文化・自然・温泉等)した数はいくつか	鈴木ら(1984)
	新たな自己を発見するきっかけがあったか	
	観光交流を通して自分自身を振り返るきっかけがあったか	
	観光地に対する未知の発見がどれくらいあったか	
	自分の趣味嗜好に変化があったか	
自己実現	新たにしてみたいことができたか	Pan et al. (2020)
	達成感を得られたか	
	観光を通して知識が増えたと思うか	
	他人から認められ、尊敬された気がするか	
	認知や知識などの限界を広げることができたか	
観光の満足度	今回の観光は、人生を豊かにしてくれたか	
	休暇の目的を達成することができたか	
	観光地での経験に満足しているか	
	観光サービスに満足しているか	
	観光商品に満足しているか	
人生の満足度	人生を豊かにするような、忘れられない思い出ができたか	
	観光から帰ってきてから幸せに感じたか	
	観光での経験がQOLを豊かにする忘れられないものだったか	
	意味のある、満ちた人生をもたらした気がするか	
	人生に波はあったが、観光後は気分が良くなったか	
	人生における大事なことを見つけたか	
	人生における満足度が観光を通して上がったか	

5. 三浦半島・伊豆半島の観光政策

神奈川県に南東部に位置する三浦半島では、神奈川県と鎌倉市、逗子市、葉山町、横須賀市、三浦市の市町長が連携して三浦半島全体を活性化させようと、「三浦半島魅力最大化プロジェクト」を2015年度から策定している²⁾。最新の2020年度版には、プロジェクトの大きな柱の一つである「観光の魅力」の向上に向けて、「広域観光の展開・プロモーション」を掲げた。具体的には、「点から線へ、さらに線から面へと広げて観光の周遊化を図る」とし、広域観光周遊ルートの作成や自転車による周遊促進とサイクリストの誘致を検討している。また、このサイクリング事業は三浦半島の4市1町に計8つのマイルストーンと呼ばれるモニュメントを設置し、それらを巡回することで半島を周遊できる仕組みである。

また、三浦半島を縦断する京浜急行電鉄では、2020年

10月より、三浦半島の京急バス、電車の乗車券や食事とアクティビティのついた「三浦半島まるごときっぷ」の販売を開始した¹⁵⁾。2日間で三浦半島の回遊をしてみようという試みである。

一方、静岡県南東部に位置する伊豆半島には一般社団法人美しい伊豆創造センターが存在する。この団体では、伊豆半島を構成する13市町の首長が理事を務め、2020年度には「来遊客周遊性向上事業」として伊豆半島をサイクリングで一周するイベントの継続実施や、道の駅の周遊促進を掲げた³⁾。

また、この団体に加え東急株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社ジェイアール東日本企画等が連携して伊豆半島へ観光型 MaaS を導入しようと動いている¹⁶⁾。導入のための実証実験は、2020年3月までに2回行われており、今後サービスのエリアを展開して Phase3 の実証実験が行われる見通しである¹⁷⁾。この観光型 MaaS の導入で、二次交通をいかしたシームレスな移動の実現と周遊促進に繋げたいとする。

6. 半島訪問者の旅行行動・意識調査

本調査は、これまで検証されてこなかった「半島観光は周遊が良いか否か」を明らかにすることである。調査の対象は、伊豆半島もしくは三浦半島を5年以内に訪れたことのある人である。質問項目は、個人属性に加えて観光時期や訪れた観光スポット、滞在時間といった旅行者行動に加え、達成感があったか、やりラックスできたか、貴重な体験ができたか、といった旅行者意識に関する設問で構成される。調査は、2020年10月にWEB調査会社に委託して実施する。調査の基礎集計結果や仮説の検証結果は研究発表会にて報告予定である。

7. おわりに

本研究の最終的な目的は、半島における周遊の価値を検証し、その結果を三浦半島の観光政策にいかすことである。これまで周遊に関しての観光客の行動特性や滞在時間、目的地選択といった研究は行われてきたが、本研究のような周遊観光の価値に注目した研究は存在しない。そのため、筆者は本研究がこれまでにない新しい観光の研究分野だと位置付けている。

この調査を通し、例えば半島観光では、周遊している人の方が周遊していない人よりも、潜在変数のひとつである人生における満足度が有意に高いと示された場合、周遊観光には価値があると評価される。逆に周遊の有無による観光の価値に関する変数に有意差が認められな

ければ、半島において周遊観光を促進する合理的な理由を失うことになる。その場合は、単純な往復型あるいは滞在型の観光を促す政策も併せて検討されるべきであろう。

参考文献

- 1) 森地茂, 毛塚宏, 伊東誠: 魅力ある観光地と交通, p.24, 技報堂出版, 1998.
- 2) 神奈川県: 三浦半島魅力最大化プロジェクト, 2020, (2020年10月1日閲覧: https://www.pref.kanagawa.jp/documents/58742/miurapj_202003.pdf)
- 3) 美しい伊豆創造センター: 令和2年度(一社)美しい伊豆創造センター事業計画, 2020, (2020年10月1日閲覧: <http://izu-trip.com/office/wp-content/uploads/r2-jigyouseikakuan.pdf>)
- 4) 橋本俊哉: 観光回遊論—観光行動の社会工学的研究一, pp.301-302, 風間書房, 1997.
- 5) 西野至, 西井和夫: 京都観光周遊行動データを用いたハザード関数滞在時間モデル, 都市計画論文集, No.35, pp.727-732, 2000.
- 6) 西井和夫, 佐々木邦明, 金賢, 品川円宏, 山根広嗣: 観光客情報利用と周遊パターン・滞在時間特性との関連分析, 土木計画学研究・論文集, Vol.22, No.3, pp.487-494, 2005.
- 7) 西野至, 西井和夫, 北村隆一: 観光周遊行動を対象とした複数目的地の組み合わせ決定に関する逐次的モデル, 土木計画学研究, 論文集, No17, pp.575-581, 2000
- 8) 観光庁: 観光地域づくり法人(DMO)登録要件の充足状況に係る判断基準, (2020年10月1日閲覧: <http://www.mlit.go.jp/common/001344090.pdf>)
- 9) 神奈川県: 観光客消費動向等調査, (2020年10月1日閲覧: <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ya3/cnt/f80022/p1185401.html>)
- 10) 鈴木忠義, 毛塚宏, 永井護, 渡辺貴介: 土木工学大系 30 ケーススタディ観光・レクリエーション計画, pp.49-51, 彰国社, 1984.
- 11) Yu Pan, Xiaoxiao Fu, Youcheng Wang: How does travel link to life satisfaction for senior tourists?, *Journal of Hospitality and Tourism Management*, Vol. 45, pp.234-244, 2020.
- 12) Hongmei Zhang, Yan Wu, Dimitrios Buhalis: A model of perceived image, memorable tourism experiences and revisit intention, *Journal of Destination Marketing & Management*, Vol. 8, pp. 326-336, 2018.
- 13) 東海バス: 伊豆半島路線バスの旅モデルコース, (2020年10月1日閲覧: <https://www.tokaibus.jp/izu-rosenbusnotabi.html/>)
- 14) 伊豆ドリームパス, (2020年10月1日閲覧: <http://www.izudreampass.com/index.html>)
- 15) 京浜急行電鉄: 新しいおトクなきっぷ「三浦半島まるごときっぷ」発売!! , 2020, (2020年10月1日閲覧: https://www.keikyu.co.jp/company/news/2020/20200916HP_20063TE.html)
- 16) 東急株式会社: 伊豆における観光型 MaaS 実証実験について, 2019, (2020年10月1日閲覧: <https://www.tb.mlit.go>

jp/kanto/content/000164463.pdf)

020/20200904_ho01.pdf)

- 17) 東急株式会社, 東日本旅客鉄道株式会社, 伊豆急行株式会社 : 観光型MaaS 「Izuko」 Phase3を11月16日から開始, 2020, (2020年10月1日閲覧 : <https://www.jreast.co.jp/press/2>)

(Received ?)
(Accepted ?)